

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500012		
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社		
事業所名	中津川ケアハートガーデン グループホームなかむらの郷		
所在地	岐阜県中津川市中津川3042-39		
自己評価作成日	平成21年10月15日	評価結果市町村受理日	平成21年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2191500012&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成21年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地域との関わりを大切するために、外出(地域で開催されている催し物への参加・買い物・外食・季節の花見学・喫茶店など)を行なっている。 常に入居者さんと共に過ごすことを大切にし、行動を共にすること。 スタッフの資質向上を目指して全員での研修と力量にあわせた研修があり、常にケアの向上を目指している。(母体法人が開催する研修が本社開催と拠点開催がある)</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>田園地帯の一部を造成した住宅地に、恵那山を背に建てられたゆったりとした平屋の木造新築のホームである。母体は全国15ヶ所のグループホームを運営している安定した経営基盤を持つ法人であり、資金的なバックグラウンドの豊かさは建物の構造や豊富な人材に表れている。ホームはそこからくるメリットを享受しながら、地域に根付いた独自の理念に基づき利用者に寄り添いながら運営している。一方、管理面においても、施設長をサポートするマネージャーが付き、最近、隣県に開設したホームも併せて管理している。職員の利用者に寄り添う穏やかな行動と笑顔の対応がとても印象的である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居前と同じように地域とのつながりの継続を理念に取り入れ、スタッフと共有し実践している。今後は理念についてタッフ全員での話し合いも考えている。	今までの生活環境と地域とのつながりを大切に、互いに支え合い、共感と協調という理念を共有する中で、一人ひとりの尊厳を尊重して、安心して暮らせる取り組みの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会も加入し、近くの集会所で開催されている生き生きサロン・赤ちゃん体操教室・カラオケ同好会などに毎月参加させて頂き地域の皆さんと交流している。地元の小中学校の体験学習やボランティア・地域の方々の催し物ボランティアもある。	自治会に加入して集会所の鍵の保管を担い、自治会で催す子育て教室や生き生きサロン、カラオケ同好会などに参加し、住民と交流を深めている。また、地元の子供会・小中学生の福祉体験学習の受け入れや、ホームの行事に地域のボランティアの協力を得たりと、地域とのつながりがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度数名のスタッフが、キャラバンメイト養成講座・フォローアップ研修を受講し、地域の方々に認知症の方々に對して更に理解していただけるような機会を設けたいと思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおよそ2ヶ月に1回会議を開催し、現状報告や生活の様子をみていただき、意見交換を行ったり、地域の情報を頂くなどサービスにつなげている。	定期的に運営推進会議を開催し、利用者の個人情報・プライバシーを損なわない範囲で、ホームの現状報告を公開し、外部の有識者の視点を取り込み、ケアの実践に活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者には運営推進会議の委員として参加していただいたり、介護相談員さんの訪問もあり、日頃から相談やアドバイスを頂いている。市主催の会議や研修会などにも参加して交流を図っている。	運営推進会議に出席した担当者との情報交換や市主催の講演会、研修会への参加・介護相談員の受け入れ、市職員の福祉研修や消防職員の研修の受け入れ等行政と連携をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフはすべての身体拘束禁止の具体的な行為について理解し、日々のケアに取り組んでいる。玄関はセンサーが作動し、入居者さんを見守っている。外に出たいという気持ちを理解し制止せず一緒に外に出て過ごすことが多い。	職員は「利用者の行動の自由・尊厳」を原理原則として日々のケア実践に努めている。利用者が一人でホームの外に出かけようとする際には、玄関のセンサーが作動し、職員は制止することなく距離をおいて見守り、安全にサポートしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止には徹底しており、言葉の虐待防止にも取り組んでいる。全員のスタッフではないが防止法の研修で学んでいるが、更なる防止の徹底をはかるために全員のスタッフが研修会に参加できるようにしたい。		

岐阜県 中津川ケアハートガーデン グループホームなかむらの郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会で制度について学び、現在制度を活用しているが、他に必要性があると感じていても家族(子供)に周知することに消極的になっているところがあり、今後の課題である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前面談時や契約時・改定時には、文書による説明や意見交換を行い納得をしていただいていると感じている。入居後も引き続き契約内容について説明をしたり、話し合うこともある。又重度化に伴う使用機器についても家族と相談しながら、理解や負担軽減が図れるように支援している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	スタッフも面会時にはできるだけ家族と話す時間を作り、希望などを聞くように努めている。入居時やケアカンファレンスの機会にも要望などを出していただき、ケアプランにも取り入れている。	利用者や家族の意見や要望をできる限り運営に活かし、反映させるよう、職員は対話を中心に表情や行動に注意を払い、いつでも、どんな機会でも、できる限り思いを把握できるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	母体法人の代表者がスタッフ会議に毎月参加しスタッフとの意見交換の機会も設けている。グループホームの運営に関しては、スタッフに改善提案書の提出の機会があり、提出された内容を検討するなどの機会がある。	職員の意見や提案を出す場として、母体法人の代表を交えてスタッフ会義を定期的で開催している。また、職場のリーダーを通じて、定期的に改善提案を行う機会を設けており、運営やケアに生かし、職員の質の向上に結び付けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの実績や努力などを賞与や給与昇給に反映する機会が年に3回あり、各種資格取得に対しても奨励金制度やレク費補助・有給休暇や誕生日休暇などの福利厚生もある。スタッフ間の信頼関係は良好で働きやすい雰囲気づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内には働きながらステップアップが出来る様に、力量に応じた研修があったり、スタッフ全員での研修も年に何回か行い、外部での様々な研修にも参加でき、学ぶ機会が多い。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者での部会があり、意見交換や相互交流を図っているが、現在は管理者だけが参加しており、今後はスタッフの交流も行ないたい。合同の研修会を開催したこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居を希望された方には、ホーム見学や半日から1日くらいホームで過ごしていただくなど本人や家族が安心して入居できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談の場で、情報交換や思いの汲み取りを心がけ、重要事項説明書や契約書などの内容に沿って詳しく説明しながら納得をして頂き、信頼関係づくりに努めているが信頼関係づくりに時間がかかる場合もあり、更なる関係づくりに努めたい。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービスを見極めるように努めているが、入居された後でも他のサービスが必要な場合は、他のサービスに繋げた例もあり、今後も対応に努めたい。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフ全員が常に共に過ごすことを大切にし、決して無理強いしないように食事作り・掃除・洗濯などの家事を支えあいながら一緒に行い、料理や季節の行事などについて教わることも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族もチームケアの一員として関わっていたできるように家族に働きかけることを大切にし、面会や外出・外泊の機会を作っていただくなど、家族の協力もあるが、中には家族の事情で疎遠になってしまう方もあり、更なる働きかけを行ないたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅での生活と地域との関わりの継続を理念に掲げており、買い物や理美容院・地域の人たちとの交流を大切にし、関係が途切れないように努めている。	地域の中で今までの生活が途切れないように、行きつけの美容院、近くのスーパーや近くにある大規模百貨店など馴染みの場所に行ったり、季節の行事を大切にして地域の人と交流しながらホームの生活を楽しんでもらえるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに支えあうことを理念に掲げ、入居者が孤立しないように事前に対処したり、なぜ孤立されるのか？というところから考えたり、入居者の間にスタッフが入り話題を提供したり、常に利用者さん同士が支えあえるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新たな入所先を訪問したり、入院が長引き退居されても再度申し込みを受けることもあり、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関わりの中から、話の端々に出てくる生活歴や要望をアセスメントシート(センター方式を使い)に記入して情報を共有し、ケアプランを作成している。認知症が進行し意向の把握が出来ない方は、関わりの中から、意向の把握に努めカンファレンスを行い本人の意向に沿ったケアに生かしている。	センター方式のアセスメントシートを活用して、日常のケアや会話の中から、思いや意向を把握している。家族の面会や、利用者の何気ない行動からも要望希望を感じ取り、介護計画に反映させ、利用者の思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族から情報を頂いたり、日々の会話の中からは把握に努め、センター方式シートに記入し、スタッフで情報の共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式シートに記入したり、バイタルチェック表に記入してスタッフ全員で情報の共有をはかり、ケアプランなどにも取り入れ、スタッフが同じ関わりができるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ全員がセンター方式を研修で学び、アセスメントを行い、本人の希望や家族の希望を尊重し原案を作成して家族に確認を行ったり、主治医の意見も反映させながら計画を立てて実践しながら毎月モニタリングを行い、ケアカンファレンスに出席していただくこともある。	センター方式により、利用者・家族の意向・要望に寄り添った原案を作成し、かかりつけ医の意見を取り込みながら、介護計画を作成して家族の承認を受けている。毎月定期的にモニタリングを行い、計画の見直しにつなげている。ケア会議には家族の出席を依頼する時もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のチェック表やセンター方式シートの24時間生活変化シートに生活の様子や気づき・アイデアを詳しく記入し情報の共有を行い、介護計画に反映させ、実践しながら見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望や、家族の状況により、通院介助や特別な外出(理美容院や諸手続きなど)支援を柔軟に行なっている。又母体の会社からの支援体制も受けられ、外出支援や諸行事の応援・弁当の配色も受けられる。		

岐阜県 中津川ケアハートガーデン グループホームなかむらの郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で開催されている健康サロンやカラオケ同好会・赤ちゃん体操教室などの毎月参加できるようにスタッフ体制を整え、一緒に参加して楽しんだり、地域の方々がホームに来て皆さんと交流できるように工夫している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については本人や家族の希望を優先している。かかりつけ医とは常に連携を図り、信頼関係も築くことが出来ており、往診や緊急時の対応などの支援を受けている。整形外科医も協力的で、相談や往診も受けている。	かかりつけ医は利用者・家族の希望を優先し、常に連携をとり、情報交換を行い、信頼関係を継続している。ホームの協力医(内科・整形外科)の定期的な診察が実施され、気兼ねなく相談できる体制と緊急時の往診もあり、利用者・家族には安心感が得られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	准看護師が3名おり、日々の健康管理を行いながら、かかりつけ医の看護師さんとも気軽に相談することが出来きている。現在看護師を採用し医療連携の準備を進めており、今後は更なる支援体制を整えたい。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者との関係については常に相談できる状況になっており、入院時には更に情報交換や関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年度中には医療連携体制を整え、重度化や終末期に対応できるように取り組み中である。指針や家族様への連絡・契約内容変更に関わる合意書も作成中である。スタッフの重度化や終末期の研修も計画中である。今までに家族とは重度化に対してのカンファレンスを行なった方もある。	医療連携体制を整えて重度化・終末期に対応できるように、人員の配置、書式、マニュアルや指針等家族との合意形成に伴うルール作りに取り組み、年内を目標に進めている。職員に対しても、重度化や看取りについての研修が計画されている。	マニュアルや指針づくりには、全職員が参加し、係わりが持てるよう取り組まれない。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当についてはスタッフ全員が年に1回消防署職員の救急救命講習を受け、緊急時に対応できるように身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は様々な状況を想定し、年に何回か行いスタッフは常にイメージトレーニングを行い、実践できるようにしている。地域の方々にも協力を依頼するなど体制を整えている。	防災訓練は、消防署の指導を受け、定期的実施されている。ホームの基本的な対応はマニュアル化され、全職員が身体で覚えるよう、常にイメージトレーニングを実施して意識づけている。地域の協力体制もあり、利用者には防災頭巾、職員にはヘルメットが、すぐに手に取れる場所に常備してある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活習慣やその人の歴史を知り、一人ひとりを尊重することを一番大切し、スタッフ間で常に話し合っている。自分だったらというところに置き換えて考え、プライバシーを守るように心がけている。	利用者一人ひとりの尊厳を守るため、常にプライバシーを尊重することを職員間で話し合い、その情報を共有しながらケアの実践をしている。入居前の生活習慣、思いや好みを知り、利用者を理解した上で、常に自分に置き換えて、言葉かけに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴の姿勢が基本であるが、意志表示が出来ない方には、表情や態度で本人の思いを押し測り、自己決定ができるように働きかけることをスタッフ全員が心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本方針に揚げて、全員のスタッフは共に過ごすことと一人ひとりのペースに合わせ、したいこととどう暮らしたいかを理解するなど心をみるケアを心掛けている。部屋で過ごす方、部屋に居たくなく車椅子での居睡りをされる方もあり、見守ることも多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の習慣を大切に、起床時必ず声かけをしたり、介助により身だしなみを整えて頂く等常に注意を払っている。お化粧の支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人なりの関わり方を見つけて、小さなことでもやれることは一緒に行なったり、得意な方には準備段階から、関わっていただき、スタッフが教わりながら楽しく行なうことが多い。和菓子や手作りおやつを皆さんと一緒に楽しみながら作ることが多い。	身体機能の低下に伴い、食事の準備等への係わり方が少なくなっているが、生活リハビリの一環としても出来ることを見つけて、おやつ作り等に参加してもらうことで、楽しみの支援に結び付けている。なかでも、みたらし団子づくりは好評で、団子を丸めるなどに楽しんで参加してもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養士にアドバイスを受け、栄養バランスを考え、食事形態も一人ひとりに合わせたり、その日の状況をみながら提供している。水分についてはスタッフ全員が必要性を理解し、チェック表に量の記入をするなど把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの支援を行っている。歯科受診する方もいるが全員ではなく、自歯でプラークコントロールの必要な方も多く歯科受診の必要性を感じている。口腔内の状態の確認をもっと確実にこなすとよい。		

岐阜県 中津川ケアハートガーデン グループホームなかむらの郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、訴えれない方は行動で察して声掛け誘導を行なっているが、更に入居者のサインを読み取りよいタイミングでの声かけが出来るとよい。又排泄の自立支援については常にスタッフ間で話し合い対応している。	日常生活の中で、しぐさ・行動・態度等から、利用者の排泄パターンを把握しながら、寄り添い、声かけをして排泄を誘導している。職員が気配りしながら排泄のタイミングをつかみ、自立支援に向けての話し合いを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食品を献立やおやつに取り入れたり、水分量のチェックや運動を促し便秘の解消に注意を払っている。薬にてコントロールしている方もある。自力でトイレに行かれる方の排便確認が出来ないことがあり、見守りの方法に工夫要る。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入りたい日や時間ということないが、本人の意志を尊重し拒否される方にはタクティールケアを行ったり、気の合う人同士で入浴していただくなど、入浴を楽しんでいただけるように工夫し、後で気持ちよかったといわれるように心掛けている。	入浴日・入浴時間は概ね決まっており、現在はほぼ全員の利用者に何らかの介助が必要だが、利用者の意思を尊重した対応している。入浴を拒否している利用者には、タクティールケアをしたり、気の合う人同士の入浴や、家族の協力を得ながら入浴の工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間に違いがあり、個々のペースで休んでいただき、室温・明かりなどにも注意を払い安眠できるように努めている。日中も休息できるような支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイル・薬ケースには薬の種類・目的・副作用などが記されており、服薬時には声に出して確認を行い、他のスタッフに聞いてもらいながら服薬支援を確実い、状態の変化にも注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意なことや好きなこと・献立書きや食作り・家事・掃除・塗り絵や洗濯物たたみなどをそれぞれに行なって頂き、何かの役に立ちたいと台所にも入られ、見守ることもある。モーニングコーヒー(ココア)も毎朝あり、散歩や屋外に出ることも多い		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域で開催される生き生きサロンやカラオケ・赤ちゃん体操教室に参加したり、季節の花見学・喫茶店など皆さんの喜ばれる外出支援ができるように努めている。少人数での買い物にも出かけている。家族の協力です毎週外出や自宅に行かれる方もある。今後も更に家族の力を借りていきたい。	利用者の希望に添いながら外出支援を行っている。インフルエンザの予防からも人混みの多い場所を避けながら、買い物・喫茶店等に出かけている。季節の花見や紅葉狩り、地元で作るハスの花見、地域の集会所で行われるサロンや教室に参加して外出の機会を多く作るように努力している。	

岐阜県 中津川ケアハートガーデン グループホームなかむらの郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を気にされる方は小額ではあるが所持して頂き、安心感を持っていただき、買い物時は自分で支払いができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかけていただいたり、一部の家族から毎日電話がある方やFAXのやり取りもあるが全員ではない。今後は全員の方にも支援したい。手紙を書かかれることはないが、手紙の支援も行いたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	スタッフは常にホーム内の換気・温度・湿度・音・光などには注意を払い快適に過ごして頂けるように配慮している。又、入居者の方々に季節感を感じて頂けるように、季節にあった貼り絵を皆さんと作って飾るなどスタッフが工夫している。	室温、床の温度・照明等は、利用者の状態や希望に応じて職員が調節している。天井が高く、広い壁面には季節の貼り絵や写真が展示されている。居間からは恵那山を眺め、季節の移ろいを楽しむことができ、シンプルな中で居心地良い癒しを得る工夫がある。玄関には職員の手作りの防災用具入れ兼靴脱ぎ用ベンチ、また、洗面台が設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった人同士が過ごせるようにソファを2箇所に配置し思い思いに過ごして頂けるようになっている。常にソファの位置に気を配り配置換えも工夫している。芝生の庭にもベンチを配置し、くつろいでいただけるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には出来るだけ馴染みの物を持ってきて頂く様にお願いし、配置は家族と相談し落ち着けるようにしている。テレビや畳・御主人の遺影の持ち込みもあるが、最近入居された方で事情があり使い慣れた物の持込がない方もあり、今後は更に居心地のよい空間づくりを行ないたい。	居室のスペースが広く、とてもゆったりとしている。それぞれ自分の好みの家具が持ちこまれて使用しやすいように配置してある。家族が訪問しても同室でゆっくりと宿泊ができ、プライバシーが守られ、より絆を高めることができる空間となっている。夜間何度も排泄の行動をとる利用者の居室のドアには、優しい音のする風鈴がつけられ、安全を見守る工夫がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや部屋には解りやすく張り紙をするなど混乱を招かないように努め、通路には手すりがある。その方・その時の状況に配慮しながらフットコールの使用や見守り、車椅子の使用などを行い、安全の配慮を行なっている。夜はトイレの電気は点けドアを開けるなどわかりやすいようにしている。		